

ICTとアクティブラーニングを取り入れた「国語」の授業実践と教材作成

齋 藤 貢 市 芝浦工業大学中学高等学校

文章読解や自己表現に向かわせたい。

1. はじめに

生徒たちは、現代メディアを広く表面的にとらえることが得意である。しかし読解力や分析的など文章理解、論理的な記述に課題がある。「国語」でも現代社会と生徒の変化に対応した、工夫の必要を感じている。知識の量的確保や基本的な読解力は当然必要なことだが、授業では生徒が自ら考え、人に伝え、意見を突き合わせまとめ、自己評価する能動的な姿勢を育てたい。そのために授業形態の工夫は思考の機会を与え、ICTは現代社会で欠かせず身近に感じるはずであり、多くの学びの可能性を秘めていると考える。

アクティブラーニング（以下AL）の実施にあたっては、発表やグループワークなどを多く取り入れ、論理的な思考と伝える技術を意識した学習を行った。知識の蓄積だけではなく、知識をどう使うのか。そして自らものを理解するためのいろいろな視点を身に着けさせる。人の意見を聞き、協働して答えを導く方法を中学から練習する。加えて自分の読みへの評価を知るための相互評価も実施する。最終的には読書や生活の場面で、論理的に思考して学ぶ姿勢を育てたい。

ICTの活用に向けた「国語」での利用方法とは、どのようなものがありうるか。主体的に情報を選別し、思考の道具としてメディアと付き合うことを意識させる。教材理解を豊かにする資料（動画、静止画、HP）、生徒の作成した資料、豊富な情報に教員の導きと生徒の興味関心を合わせて双方向授業として利用できるICT教材などを制作、使用する。研究授業、公開授業などを行い、広く意見を聞き、webを使った生徒相互評価や授業評価も行った。最終的にはICTを1つの道具とし、

2. 授業実践

今までの授業の中で、意見交換が盛んで、目標達成でも効果的な学習を、ALとICTの活用で効率的な再現を試みた。

2. 1 実践1 iBooks Authorを使った教材作成と授業実践「松尾芭蕉の旅」（中学3年国語）公開授業実施

a 使用教材

『国語3』 「言葉が見えた風景――おくのほそ道」 学校図書、便覧、電子教科書型教材、課題解決用学習プリント、NHK「10min. ボックス 古文・漢文」 「おくのほそ道」

b 単元の目標

「おくのほそ道」において、芭蕉がどのような観点で風景をとらえ表現しているかを読み取り、その観点と言葉が伝統文化を継承し発展させたものであることに気づく。

c 本実践での目標

- ・自発的に調べ考えながら、松尾芭蕉と『おくのほそ道』の理解を深める。主体的に調べ、知る喜びを学びに結びつける。
- ・プリントを埋めながら読解のための知識の確認をする。
- ・『おくのほそ道』 「旅立ち」 「平泉」の読解に結びつけ、紀行文と背景について学ぶ。

d ALの手法

ペアワーク、フィールドワーク（文学散歩）

e ICTの機器等

iBooks Authorでの電子書籍教材（図1）、生徒2人に1台のiPad、プロジェクター



図1 動画と画像を埋め込んだページ

教材作成は「芭蕉の人生」と「おくのほそ道の名場面」で計20ページほどとなった。昨年の冬期講座「文学散歩（深川）～松尾芭蕉と芥川龍之介の足跡～」フィールドワークでの取材とその様子が入っている。

f 授業展開（全1時間） 省略

g 評価

【評価と課題 研究授業への意見】

生徒の積極的で生き生きとした参加がみられてよかった。ペアで答えを見つける方が、1人1台より良かった。自ら学び考え、主体的に学ぶ姿勢で取り組んでいた。以下の点に留意して授業準備をした。プリントが生徒の理解を進めるものとなっていたか。指示が適切で生徒の学習作業を導けたか。そして古典に対する作者や場面の理解の助けになったか。インターネットや書籍を利用した調べものなどと違った導きを持った教材になりえているか。

【生徒アンケート】

分かりやすいや先進的、新鮮という第一印象が多かった、動画が見られてイメージが湧いた、校外授業のようで楽しかった、作者や教材の理解が進んだ、など。

上手いかなかった部分では、操作が分からなかった、もっと時間が欲しかった、書き込みたい、紙の方が勉強している気になる、など。

h その他

同様の教材として「夏目漱石とこころ」「源氏物語」「万葉集と舞台」を制作。

2.2 実践2「少年の日の思い出」グループ学習（中学1年国語）

a 使用教材

『国語1』 「5 関係の中で 少年の日の思い出」
学校図書、まとめ・意見プリント

b 単元の目標

- ・登場人物の気持ちや思いを読み取る。
- ・語りの構造に注目し、人物の関係を考える。

c 本実践での目標

- ・登場人物の感情を読み取り、他者と共有し議論することで、読みの幅を広げ読みの深まりと意見を持つことの大切さを知る。

d ALの手法

グループワーク（5人が基本）、PBL、プレゼンテーション

e ICTの機器等

iPad、プロジェクター、Keynote

f 授業展開（全6時間） [①②は授業時間]

意味調べと通読を宿題とする。

①②役割分担を作り、プリントを使いながら一斉授業で読みを進める。プリント左下の個人カードに意見を書く。

③プリント2枚から意見カードを切りとり、意見集約プリントに張り付ける。多数意見には赤で線を引き、少数意見には青で線を引いて、少ない意見も尊重しながらグループの意見を集約し、議論を通して1つの文章にまとめる。2枚目のプリント最後にある「この小説からグループで考えたいことをかいてみよう」という質問の答えもテーマ集約プリントに集め、議論して調べるテーマを決める。

④⑤ ③のつづきとテーマに沿った調べもの、発表原稿作成をする。

⑥生徒手元には発表原稿のコピー、黒板にプロジェクターで投射して発表をする。同時に相互評価をし、最後に自己評価とアンケートをする。

g 評価



図2 発表資料

【評価と課題】

個人の意見シートを作るのは授業での発問や導き方が重要だった。時間を決めて作業のスピードをコントロールした。生徒は制約の中でよく意見を出し、協力し、激論を交わしてくれた。普段より自分の意見をしっかり持つという負荷をかけて学ばせたが、何人かはうまく意見が書けずにグループの学習を遅らせてしまった。

【生徒アンケート】

よかった点は人の意見が分かった、意見の違いが分かった、考えが共有できるのがよかった、たくさんの意見から厳選してグループの答えを探すのがよかった、たくさん意見が出た、みんなまで学べた。協力できた、いつもより読みが深まった、疑問が解消された、など。

悪かった点はグループの中にやる気のない人がいて困った（本校では4人がよい）、時間が足りなかった、（発表の説明で）根拠になっていないグループがあった、発表資料の工夫が足りなかった、役割分担どおりできなかったなど。

「普段の小説の授業より読みが深まった」という質問では深まったという意見が8割を超えた。生徒たちは読めた実感を持てたようだ。

h その他

この形式でのグループ学習とプリントを切り離して意見集約をする方法は、高校の小説教材でおこなってきたものを中学生用に直した。

2. 3 実践3 ジグソー学習で古典を伝えよう！（中学1年国語）研究授業実施

a 使用教材

『国語1』 「4時を超えて」 学校図書、学習ポ

リント、『宇治拾遺物語 古本説話集』日本古典文学全集 小学館

b 単元の目標

- ・何をどう考えて語りかけているか、読み取る。
- ・登場人物、語り手の見方を考えて、音読する。

c 本実践での目標

- ・物語の展開と人物の描き方、語り手の批評を読み取り、自分たちの視点としても受け止める。
- ・ALで協働を引き出す。
- ・PBLで目的を明らかにし、話をまとめ、ジグソー学習を使って伝える技術を深める。
- ・グループ作業をICTで効率化し、また発表をする機会とする。
- ・生徒相互で朗読の練習をし、教え合う。
- ・googleフォームでの評価システムを実験。

d ALの手法

ジグソー学習、グループワーク（4人）、発表、PBL

e ICTの機器等

iPad、ロイロノート、プロジェクター、googleフォーム（アンケートと集計）、keynote

f 授業展開（全6時間） [①②は授業時間]

①②グループA [4人10グループ] に有名な説話を1話ずつ渡し、古典を読んであらすじをつかませ、起承転結で要約させる。5種類を2グループが担当した意図は深い理解、競争意識、比較である。PBLの「MISSION!! 小学4年生に古典の話を伝え、古典の雰囲気味わってもらおう」の意図を伝え、小学4年生に伝える時の留意点を考えさせる。また場面を分担して朗読の練習をし、確認し合う。

③グループAの構成員を1人ずつ集めて再構成したグループB [5人] であらすじの発表をしあい、よい点や改善点を伝え合う。ジグソー学習の形式での発表は、話の構成を伝える方法を考え、実際に伝えることで表現力を鍛え、相互評価によってお互いに学び合う。1人1人の納得と理解を重視する。

④グループAでそれぞれの問題を話し合い解決

し、まとめを作る。ロイロノートを使う。

⑤ [研究授業] これまでの作業を確認する。前時にひきつづき、ロイロノートであらすじをまとめる作業の注意点と方法を指示する。2台の iPad を効率よく使い、分担をさせる。グループ内での意見調整を大切にする。作業が完了したら朗読のカード作成に入る。写真の取り込み方と録音の方法を説明する。同じ話を担当する2グループの朗読は、冒頭と結末に分けてある。ロイロノートでシートをまとめ発表原稿を完成させる。

⑥前時の続きから、発表の練習をさせる。グループごとの発表。紙の評価票(相互評価は「あらすじが伝わったか・朗読・発表」自己評価は「課題・協力・発表」)を手元に評価をする。google フォームに相互評価、授業の評価、自己評価を入れ、即時にフィードバックする。

g 評価

【評価と課題 研究授業への意見】

全体に関しては生徒の目の輝きが違い、意見交換が盛んだった。生徒が操作に慣れていてよい。早い。技術指導が少なくて済む。これからの授業であり、目指すべき一つの力ではないか。

授業形態は2人に1台は、全員に渡すより良い。一方で個の学習(1人で思考する)も必要では?朗読がいい。テストでの評価はできるのか。教材の準備には時間がどのくらい必要なのか。教材の選定方法は?などの意見が出た。

PBL は伝える目的をはっきり持っていたのが良い。生徒は表現や言葉の意味をよく考えていた。実際に小4に教えられるといい。目標設定と高い目標でクリアする部分が増える、飛び越える力のようなものが発揮できた。

ロイロノートは特徴がよく分かった。作業しているカードを合体できてよい。録音して人に伝える意識が考えるきっかけになれば。分担の方法を起承転結としたのがよかった。文章の特徴が分かる。韻文の朗読ではどうか。背景をつけると面白い。思考のフレームとソフトの形式が合ってい

る。現代文で使えないか。作業の効率化が行える。

ジグソー学習は、グループBで行う事前発表を個人に行ったことで、いつもなら消極的な役割をする生徒にも必ず仕事がありよかった。

2. 4 その他の実践

「変わる動物園」(以下『国語1』学校図書)の反転授業としてYouTube動画での予習。「故事成語」での4コマ紙芝居、投票をしながら皆で言葉選びを行う短歌の授業、読書紹介など

3. おわりに

生徒の反応は想像以上に良かった。目新しさと男子の特質で目の輝きが違っていたが、時間が経ち慣れると、より工夫が必要になるだろう。ALでも学ぶ姿勢を引き出せば、同様に意欲的な姿を見られる。大きな教材で実施したいが、その前に短い教材で思考法や学習シートの使い方を行っていたので教材に速やかに入れた。

国語科としては、教材を読み解く国語力やインプット作業としての知識の伝達は必要である。発表やプレゼンで満足し、知識定着など基礎的な学習をおろそかにしないように留意した。発表、議論の仕方、レポートの書き方などといったアウトプットの方法をしっかりと教えた。介入レベルや授業での教材と生徒と教員の距離感(立ち位置)、フィードバックの方法により、生徒の意見の活発さが変わった。教材理解での教員の伝達量の調整も同様である。授業時間には限りがあり、他の学習もあるので、学習工程と目標をはっきりさせた。タイムマネジメントと学習量の可視化に留意した。

最後に目標達成(評価)による学習の深化を意識させた。目標や手法、評価項目をあらかじめ明示し、長い授業の中では途中にも確認した。

ALやICTを取り入れた授業は負担が大きいですが、デジタルは再利用が容易で、他の教員も資料を使ってくれている。